史料室だより No.6

東洋英和女学院史料室委員会
発　行　1979.7.10

特集：学園生活の記録

ー明治３２年～３７年ー

吉見（旧姓安永）欣子様は明治３３年、８才の時に東洋英和女学校幼稚科に入学、寄宿生として加茂先生の部屋で生活されました。父上は八幡製鉄の技師として八幡に居られましたので、小さい時から寄宿生活を始められました。おそらく当時最年少の生徒ではないかと思われます。途中、学校制度が変更され、寄宿舎から公立の小学校へ通われた事もあったようです。

当時の寄宿舎の様子や、授業内容等を非常にはっきりと記憶されておられます。現在は西宮市にお住いですが、昭和５３年６月にお孫さんの和栗雅子様（昭和３１年卒）のお宅にご滞在中に史料室委員中野、朽木の両名が当時の生活等についてお話をうかがい、テープをとらせて頂きました。話題となったものは、礼拝、英語及び体育、国語（作文）、習字等の授業と寄宿舎の日常生活について、当時の資料を見せて頂きながらお話を伺いました。又、この時資料となった品々は史料室にご寄贈頂きました。（別記）

なお紙面の都合上お話の全部をここに載せることはできませんでしたが、テープは貴重な資料として史料室に保存してあります。

吉見欣子氏近影

明治３０年代の想いで

吉見ー どういう事からお話申し上げたらいいかと思いますが、英和にお世話になりまして第一番の事は、神様を教えて頂いた事、聖書の事を教えて頂いた事です。

委員ー 寄宿舎のご生活ではどんなことを憶えていらっしゃいますでしょうか

吉見ー あの時分はね、とにかく寄宿舎が中心でございましたものね。上級生は大きい方と申しまして私達は小さい人と申します。物云いなんぞは都筑先生という男子の先生が厳しくおっしゃいましてね、あの時には、「やーよ、そうだわよ」なんていう言葉を使いますと、「あなたたちは、お百姓とだんべ言葉を軽蔑するけれども、その方がずっといい言葉です」　といわれました。それは、何とかべし　という言葉の暑語なんだそうです。今の生徒の言葉遣いをおききになったら何とおっしゃるでしょう。私共在学の頃、西洋の先生はpupilとおっしゃいましたが、今でもそうでございますか。student？何しろ私共の時代は校長先生は西洋の先生で、私はミス・ブラックモア、

それから、ミス・ブラックモアがお留守の時なんかは、ミス・ヴィーゼーという方。一般に西洋の先生というのは私達も何かお偉いというふうに感じました。でも、ミス・ヴィーゼーなんか、朝礼拝の後だとか、一寸したことをご注意なさいましたのね。思い出しましたがね、から布巾のかけ方、乾いた布でたたんだままで拭いては駄目だとおっしゃるの。パッとこうほぐして、そして拭いた方がゴミがよくとれる、そんなような事もおっしゃいました。

委員ー 礼拝は毎朝でございますか

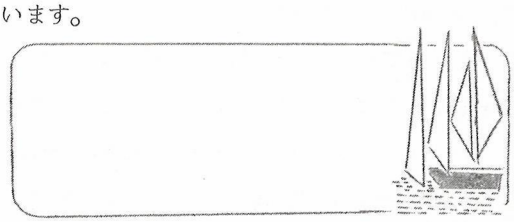
吉見ー 毎朝でございます

委員ー 西洋の先生がお話下さいましたか

吉見ー そうでございますよ。それでね、点呼も毎朝でした。それで同級生に酒井お広さんという方がいらして、その時分はね、Koh(広) McDonald だったのです。それでね、お呼びになるのを今日ははっきり伺おう、今日ははっきり伺おうと思って耳を澄ましておりましても、どうしてもそのマクドナルドが聞こえないのでございますね。何か早くおっしゃるのですね。とうとう聞き取れませんでした。

委員ー その頃、生徒の数は全校で三十人位でしたか

吉見ー いいえ、百人はございましたね。でも正確な事は分りませんけれども、ほとんどが寄宿で通学の人は二十人位で、寄宿生が八十人位かと思います。



明治３６年初夏、予科３年（敬称略）
松本みどり　酒井広
田沼てつ子　吉見欣子（１2才）
葛蔭君代　佐々木磯子　鈴木くめ子

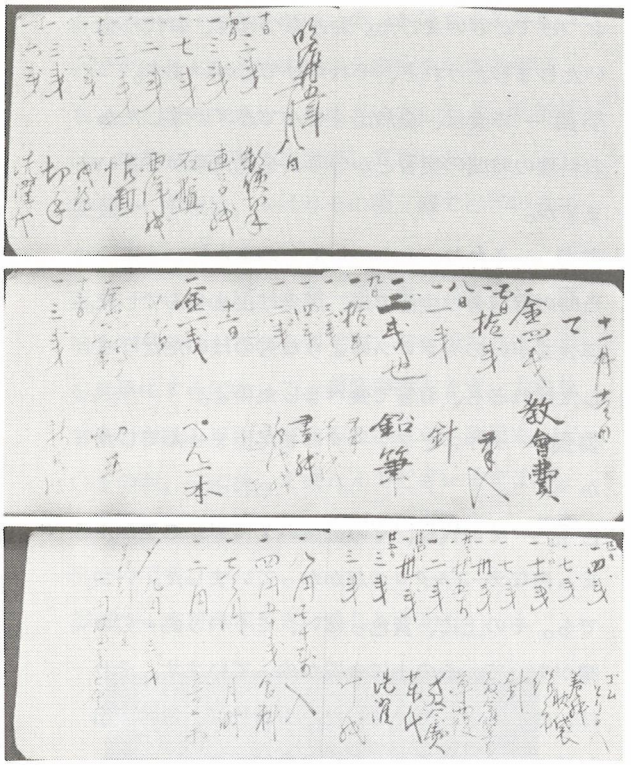
委員ー 英語なんかは、最初はどんなふうにしてお教えになりましたか

吉見ー オンタリオ・リーダーでございます。この色のもう一寸濃いような表紙でございます。無論、１でございましたよ。一番最初、間違っていなければね、cat、 rat、 hat、a cat、a rat、a hat、その次は、hen、pen、men その次がね、pig、big と思いますけどね。big というのは、田舎のお百姓さんの使う車のような感じでございます。絵がついているのです。私が寝言を云って皆に笑われたのは一つの話になっておりました。run dash run 嬉しいんでしょ？と云ったのを誰かに聞かれましてね、一人に聞かれると皆にパッと拡がり、からかわれましたの。

委員ー 前にちょっと、新井先生に伺ったのですけれどお小遣い帳も何か英語でおつけになるとか

吉見ー それは私は小さい人ですから、日本語で自分でつけたり、先生がおつけになったり、それで、一ケ月どの位の小遣いでしたかは全然記憶が

ないのです。これは予科三年（今の中学）のお小遺帳です。



小　遺　帳

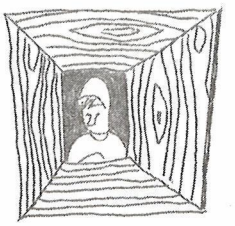
私の欲しいものはと書いてございましょ。…ハンケチ、ゴム…でございます。それを筆で書いたのでございます。

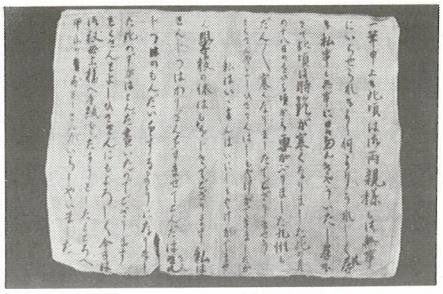
委員ー これは　キレー水というのでございましょう

吉見ー 英国山崎堂でございますね。キレー水、書いてございますか、それは皆　大人の字でございますね。加茂先生が書いて下さって、私もつけたのです。

委員ー もうその頃、加茂先生がいらしたのですか

吉見ー 私は加茂先生のお部屋だったのです。先生のお妹さんの　お園さんという方と。それだから私もしんぼう出来たのです。加茂先生のね、ご庇護がなかったら私、いられなかったと思います。やっぱりね、家が遠くてもうしょっちゅう、慢性のホームシックでございますよね。でもいろいろ先生がかばって下さいましてね。加茂先生は、さっぱりしたお方でいらっしゃいましてね。お妹さんのお園さんという方は、私より五才位お上で、私より後から学校にお入りになったのですけれど、此の方には私、一年お世話になりましたから。本当に何と申しましょうね、その頃はひょうきんという言葉があって、そういう感じのお方でいらっしゃいまして、いろいろと私も可愛がっていただきました。加茂先生は卒業生に対して、将来、困ることがあったら、いつ何どきでも学校においでなさい、私達はいつでも待って相談にのるから、とおっしゃいました。加茂先生はそういうふうにしゃっきりとした方でした。私が二年生の頃に、（昭和１０年）お別れ式があったように覚えております。先生は　渡辺裁縫女学校を卒業していらっしゃいます。それから加茂先生が　書いてごらんなさいとおっしゃって、ご自分のお便りやお手紙を　私にお書かせになったのよ。私は調子にのってね、書いたものですわ。どんな事、書いたのでございましょう。





ご両親にあてた毛筆がきの手紙

委員ー 今ここに、おやつの事が書いてございます。ふだんはおやつがございましたのでしょうか

吉見ー おやつは、土曜日に買いに行くのです。皆さんね　ご自分のご希望のものをメモにお書きになって、そしてお金を風呂敷の中に包んで、加茂先生のお部屋に出しますとね、男の小使いさんが買って来て、それで皆さん加茂先生のお部屋へ又いただきに行きます。

委員ー 今ここに、味納豆、きんつばなどというのがございますね。

吉見ー 学校からのおやつというのはございませんでね、まだQueen Victoria　の時代でございましてね、今日は　Queen Victoria　のお誕生日だというので苺が出ました。嬉しかったんでございますよ。今の方はお分りにならないでしょうけれども、今のように、年中、苺はございませんですから。それで、一年中、朝の食事は7時で、お昼は正午、夕食は6時でございますよ。それでね、お鉢が真ん中にございまして、細長いテーブルでお鉢を中心にしてそちらとこちらに八人、真ん中の四人の方がお隣りの方の給仕をするのです。そうすると、お給仕をするその方が、お箸をお取りになるまで待っているのです。その待ち遠しいこと、待ち遠しいこと。その上その方がね、他の方までちょいとお給仕なさるのですよ。又、お待ちします。今の子供と違いまして、一人、少なくとも三杯は頂きました。そのご飯が美味しうございましたからね。それで他は、お漬物とおみおつけでございました。おみおつけは、お代りをいたしましたけれど、それだけでございます。

委員ー 洋食は、全然出ませんでございましたかお料理の時間の実習とかの写真を見た事がございますが。

吉見ー それは、もう少しあとの事と思います。当時の寄宿舎の生活では、洋食は出ませんでした。洋食まがいのカツレツのようなものはいただけましたけれども、お箸で食べましたのよ。

委員ー ナイフとフォークはまだ出ませんでしたか

吉見ー その代り、その細長いテーブルの上は、まっ白なテーブルクロスがかかっていました。いつでも。その上に、黄色っぽい、こういう銘々のお膳があって、その上に食器がのっています。それは、きちんとしていました。お漬物は、お丼で出しております。それから取り分けます。

委員ー お昼や夜は、どんなおかずでございましたか

吉見ー 常に一品料理でした。お魚とか牛肉とか頂けないでおりますと、加茂先生に、「あなた、お上りなさい。」と叱られます。私は偏食でね困りましたわ。

委員ー お食事のお行儀なども、自然と教えて下さる訳でございますか

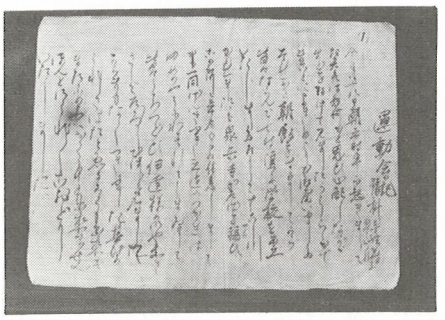
吉見ー 私達、全然教えて頂けませんでした。特に、お行儀はございませんでしたけれど、テーブルで手をずっと延ばして物をとったりするのはいけませんね。ちょっと、取ってちょうだい、と云

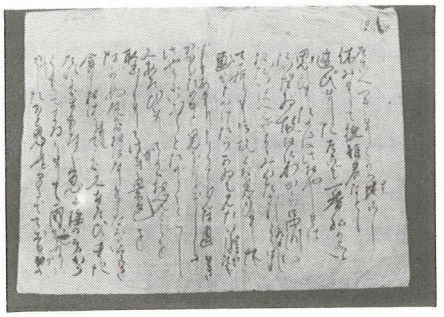
います。その位で、頂き方の作法というようなことは習いませんでした。ただ、つけて下さる方がお箸をお取りになる迄は待っている、それがね自分の分だけならまだいいの。お待ちするのもいいですけれども、他の方のお給仕をなさる時はちょっとね待ち遠しゅうございましたよ。お祈りは、加茂先生が初めに遊ばしてました。

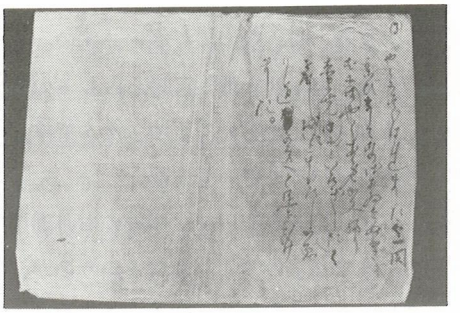
委員ー 手紙は、やはりその頃三銭でございますか

吉見ー はい。はがきが一銭五厘。それでね、寄宿舎でそのはがきが大切でね、書き損なうとそれを真黒にすみで塗って、鋭筆で書きます。お取り替えのお話、申し上げましたかしら。紙屋さんというのが、日に決って来たんでございますよね。通学生の空室に、小母さんみたいな人が、お店を出すのです。

委員ー 文房具でございましょうか







作文「運動会記」半紙に毛筆で書いたもの

吉見ー 文房具という言葉はございませんでしたよ。紙屋さんです。そうしますとね、お習字は半紙で致しましょう。ご存知でしょ、半紙二十枚、一帖でございますよね。二十枚習いました紙を揃えて出しますと、三銭が、一帖三銭の処、五厘まけるのです。それで足りないときは、ちょっと頂戴よ、とお友達から集めましてね、大急ぎで二十枚にして持って行きました。たしか間違いないと思います。私は、無駄なお金は使ってはいけないと、身にしみて、幾分でもあったならば少女会に寄付しなければならないというような気持ちでおりましたからね。小さいくせに足袋の洗濯も自分でして、日本の洗濯屋さんが、内職にどこかの小母さんがしてたのでございますね。足袋一足、二銭か三銭でしてくれましたのに、そのお金が勿体なくて、自分で、ねずみ色のような洗濯をしていたのでしょう。

委員ー このお小遣帳にはクリスマス寄付、十銭とございます。

吉見ー ふだんはもっと少ないのでございます。いつもの教会の献金はもっと少ないんでございますよ。

委員ー 教会　金三銭と書いてございます。

吉見ー 教会三銭？　私もその位と思っておりま

す。あら、まあ、皆、書いてございますの。

委員ー ええ、ちゃんと残していらっしゃいます。

吉見ー それは先生が書いて下すったんです。ピアノの月謝は書いてございますか

委員ー ピアノの方が二円で、学校のお月謝の方が一円のようでございます。食料というのが、寮費なのでしょうか。四円五十銭というのが時々出て参ります。入金十円というのが、お仕送りなのではないかと存じます。

吉見ー 自分で致しませんで、皆、加茂先生にお願いしておりました。

委員ー これは、加茂先生のお字でございますね

吉見ー それで、私昔は物のお金が余り分らなかったのです。

委員ー 寄宿の外には、お出になる事は余りなかったのでしょうか

吉見ー ふだんは出ませんでしたね。第一と第三の土曜が外出ね。お許しを頂いて、そして保証人から申し出がございますと、金曜日の放課後から外泊が出来て、そして土曜日の食事の時間迄に帰ります。土曜日の晩はやはり、自習がございましてね金曜日が free night でこんな素晴しい晩はございません。あんな嬉しい晩はございません。定期的ではないけれども、パーラーの先生が時々寄宿生をよんで下すってね。ゲームをしたり、楽しかったんでございますよ。

私共がピアノを習っていた時分にはね、裏梯子の小さなお部屋に、それはお稽古だけするピアノがございましてね、それから練習用は通学生の控え所にございました。で、プラクティスアワーが決って居りました。

委員ー 体育などは英語でなさったとうかがっておりますが

吉見ー 英語でございましたね。西洋の先生がなさいますの。それから、クラブを使いましてね。徒手体操。こうやってクラブを使ってこうやるのそれも西洋の先生だと思うの。私はそんなのは面白くて好きでした。

委員ー お召し物は、たすけがけでなさいましたか

吉見ー ええ、袴で。ですからね、跳んだりはねたりしない、お静かなんですよ。

委員ー ダンスはいかがでしたか

吉見ー 私なぞは致しません。私、此の頃、いい体操を教わったと有難く覚えますがね、あの、首の体操をやりますのよ。それから手を伸ばしましてずっと下まで曲げてしまう。それを致しますと疲れがとれます。体操は級ではなく、多勢で致しましたね。皆、英語でございました。一番先が、Attention! ですね。それからNumber です。それから、Right turn! One, two!

Left turn! One, two!

Right around turn! One, two!

委員ー まあ、素晴しい （発音が）

吉見ー 日本語に訳したらどうだか。とにかくおっしゃったそのままに。

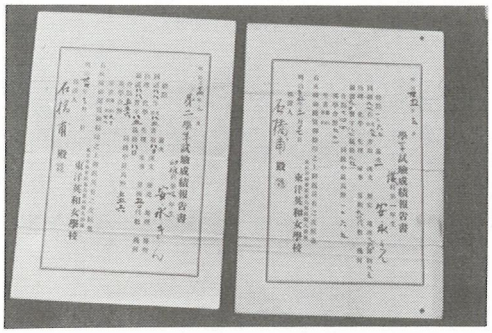
委員ー 体操をお教えになる先生は決っていらっしゃるのですか。どなたでもなさいますか

吉見ー 決っていたようですね。何しろ西洋の先生です。今では外人と云いますかしらね。英語もその頃は、英学と申しましたの。リーディングの時間でも、本の持ち方から教えて頂きましたね通路に出まして、そこで立ちまして、こういうふうに持ちまして読みました。それから、英習字は

writing。先生がone，two，three，fourとcount なさいまして、それに合わせて、こう丸を書く練習を致しました。日本の字は、いきなり筆でございました。

委員ー 英語の時はペンですか

吉見ー ええ、ペンでね。Bペンというのを使いました。父なぞはGペンを使っておりましたのよ。鉛筆は、頭にゴムのついたので、それで今のような帳面はございませんからね、皆、わら半紙とそれから罫紙を使いました。dictationなぞ、どんな帳面で致しましたかね。帳面でなく、その西洋紙を自分で綴じましたかしら、はっきり致しませんけれどdictationは盛んに致しました。



予科三年成績表 「席次一」が読める

委員ー 暗誦が主でございましたか

吉見ー リーディングの暗誦は致しませんけれどね、文学会の暗誦を致しました。

委員ー 英語でなさいましたか

吉見ー ええ、クリスマスの近い時、たまたま私がする事になりましてね、Miss Robertsonという先生が教えて下さいましてね、先生のおっしゃる通りに真似したのです。Oh! Christmas! Merry Christmas! Is it really come again ? というのです。残念ながら、これだけしきゃ覚えておりません。そうしましたら、これをね、多分その頃、カナダからいらっしゃったばかりのMiss Armstrongがね、自分の部屋に来て いっぺん云ってくれとおっしゃるので、こちらは先生のお部屋で申し上げたんですよ。涙を出して、嬉しい嬉しいと、お泣きになるの。お国を思いになったんでしょうね。日本人の子どもが真似して、これだけ云っていると思いになったて喜こんで下すったのですね。

委員ー 今の年で言えば、八つの時お入りになりましたのね

吉見ー 私が入りました時は、東鳥居坂十四番地に学校がありましてね、“山の上の学校”と申しておりました。それでどの位そこの十四番に居りましたか、間もなく、仮校舎に引越しました。そうすると、純粋の日本のお屋敷で、どなたかのお屋敷を借りたんでしょうか。昼間は教室になり、夜は寄宿舎になるのでございましてね、その時には、日曜学校は外に参りました。十四番地の次が八番地でした。八番地の新校舎は三階建でございました。二階、三階が寄宿で、一階が教室でした。一部西洋の先生と救護の教室をふだんは大きな戸で仕切ってあり、イザという時はその戸を全部外して、大きな一つの部屋になります。壁が無いという事で要所要所に大きな柱を立ててその上に二階をもたしたのでございます。どなたの設計でございましょう。木造でございましょうね。門からずっと下りますと土手になっていてつつじが華やかに咲いていました。西洋の先生のお部屋には、ベルでなく鐘が下っていて訪問者はバーンとお叩きになりました。

委員ー 寄宿の方の方が多かったのですか

吉見ー 通学生が二十二、三人で寄宿舎生が七、八十人でございました。

委員ー 八番地は今の場所ですね。この土地にも長い長い歴史がございますのね。ほんとうに貴重なお話を伺わせて頂きまして、ありがとうございました。

採録ー中野・朽木　文責ー芝原・中沢

ご寄贈頂きました資料

1. 修業証書（予科１年、２年、３年）
2. 学年試験成績報告書（幼稚科３年、予科１年）
3. 習字３点
4. 小遣帳（明治３４年９月～３５年３月）
5. 両親への手紙２通
6. 運動会（遠足）の作文
7. 当時の紙ばさみ
8. 錦絵及絵本
9. 手編の財布
10. 写　真
11. 当時の生活についての覚え書き

- ○学校の周辺　明治３３年頃より３７年
- ○（新校舎への移転、新校舎のありさま）
- ○学業のこと　明治３２年～３７年末
- ○小池先生（国語）のお時間
- ○都筑先生　ー男子は通勤ー
- ○明治３４・５年頃の運動場にて遊ぶ
- ○衣　服
- ○寄宿舎の生活　新築当時より明治３７年末まで
- ○寄宿舎生活の楽しき思い出
- ○寄宿舎にての言葉
- ○寄宿舎にての使用品
- ○寄宿舎にての遊び
- ○物やさん
- ○禁酒運動の歌　明治３５・６年頃
- ○まり歌

～～*～～～～～*～～～～～*～～～～～*～～～～～*～～～～～*～～～～～*～～～～～*～

ま　り　歌

おん京京橋　なんなん中橋　あすは十六大振袖よ　お化粧なされや　うす化粧なされ　あんまりこういと　人目にかかる　奥の障子を細目にあけたら　お油ダラダラ　おしろいチロチロ　万歳や万歳や　夕べ豆腐どうした　山王のお猿さんは赤いおべべが大おすき　テテシャレ　テテシャレゆうべえびすこに　よばれていったら　鯛のすいもの　こじょろのまきもの　一杯おすすれ　すーうすれ　二杯おすすれ　すーうすれ　三杯目には　ながしのごんべいさんが　魚がないとて　お腹だあち　腹たっては　面目ないとて　からす河原へ　身をなあげた　身はしづめど　金はうけども　そこで其子の　おんこうころ

お父さんのお帰り　お母さんのお帰り　奴のすそはき　ストーンバタン　ストーンバタン　そこでまずまず　一貫おんかし申した

あとがき

お小遣帳など沢山の資料をもとにしての二時間余りのお話を、当時の有様を十分にお伝えできればと願いながらまとめました。

（短大　中沢・芝原）